

別冊

森林体験学習活動・森づくり作業

# 安全管理チェックシート

# 森林体験学習活動安全管理チェックシート

## 1 はじめに

森林体験学習活動安全管理チェックシートは、森林体験学習活動の主催者や指導者のために、少しでも分かりやすく、かつ役に立つ安全対策を講じてもらえるよう、様々な森林体験学習活動において想定されるチェックすべき項目を網羅的にリストアップしたものです。

したがって、森林体験学習活動を行う主催者や指導者は、活動の規模、内容、場所、時期などに応じて、このチェックシートを参考として、各々の活動にふさわしい活動チェックシートを作成する必要があります。

なお、このチェックシートは、「森林体験学習等における安全管理手法に関する報告書」（平成18年3月林野庁）に掲載された「安全管理チェックシート」に加筆・修正をしたものです。

## 2 チェック事項別の項目数

チェック事項別のチェック項目数は下表のとおりです。

番号	事項	チェック項目数	番号	事項	チェック項目数
I	企画づくり	10	VI	実施の準備	14
II	場所の下見	26	VII	実施当日の運営	45
III	参加者の募集	44	VIII	事故発生への対応	20
IV	運営組織	15	IX	事後の評価	8
V	安全管理	26			

## 3 チェックシートの構成

森林体験学習活動安全管理チェックシートは、9のチェック事項別に区分されており、それぞれ、各シートの冒頭に、以下のように、①記入日、②記入者名、③できなかった項目数の記入欄（本チェックシートは二段）を設けています。

\_\_\_\_\_年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数

続いて、項目ごとに、チェック欄（）を二つ設けています。

1-1 （チェック内容の記載）

このように、各チェックシートは2回分のチェック用として使用することができるので、違いを比較することによって、問題点の洗い出しや改善措置の検討に役立てやすくなっています。

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（企画づくり）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

### Ⅰ 企画づくり

安全な森林体験学習の機会を提供するためには、まずその目的を明らかにし、その内容にふさわしい場所、時間、指導者、施設、器材などを揃え、活動のプログラムを構成する企画づくりが第一歩となります。

また、関係者や地元の協力が得られるよう活動の内容を説明することや収支予算を立てることも重要です。

- 1-1 活動の意図や目的が明確になっていますか
- 1-2 参加者の対象範囲が明確になっていますか
- 1-3 活動目的にふさわしい活動内容になっていますか
- 1-4 活動目的にふさわしい活動フィールドですか
- 1-5 実施責任者や担当者が決められていますか
- 1-6 関係者や地元の協力が得られていますか
- 1-7 わかりやすい企画書になっていますか
- 1-8 収支計画がきちんと立てられていますか
- 1-9 関連する法規などを遵守していますか
- 1-10 環境に負担をかけない視点で計画されていますか

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（場所の下見）

年 月 日 記入者名

できなかった項目数

年 月 日 記入者名

できなかった項目数

### II 場所の下見

活動プログラムを立てるに当たっては、その活動の場所を下見し、必要に応じて調査することが不可欠です。

下見は、スタッフ全員で行うことが望ましいですが、企画段階ではスタッフが揃っていない場合が少なくないので、スタッフが揃った「実施準備」の段階で下見の情報を全員で共有する必要があります。

- 2-1 実施日における交通機関ダイヤを確認していますか
- 2-2 集合場所はわかりやすい、かつ安全な場所となっていますか
- 2-3 案内地図と現地の状況は一致していますか
- 2-4 休憩施設や休憩地点は、安全な場所となっていますか
- 2-5 スズメバチ、マムシ、クマなどの危険な動物の有無を確認していますか
- 2-6 ウルシ、ハゼノキなどのかぶれる毒性の強い植物の有無を確認していますか
- 2-7 野生動物による農作物・林業被害防止等のための狩猟活動や罠の仕掛け、電気柵の有無を確認していますか
- 2-8 活動プログラムの所要時間を確認していますか
- 2-9 携帯電話の通話範囲を確認していますか
- 2-10 無線を使う場合、電波の交信状態を確認していますか
- 2-11 水の補給地点を確認していますか
- 2-12 避難施設を確認していますか
- 2-13 エスケープルートを確認していますか
- 2-14 活動を行うための十分な広さが確保されていますか
- 2-15 トイレの所在とその使用状況を確認していますか
- 2-16 臨時のトイレを設置する場合、その場所を決めていますか
- 2-17 最寄りの救急病院、診療所などの医療施設を確認していますか
- 2-18 地元の関係機関（役場、警察、消防署など）に届け出ていますか
- 2-19 救命、救急連絡先（電話番号など）を確認していますか
- 2-20 活動場所の管理者又は所有者の使用許可をもらっていますか
- 2-21 火を使用する場合、他に燃え広がらない場所となっていますか
- 2-22 案内板、道標などの案内施設は正しく表示されていますか
- 2-23 山歩きの場合、迷いやすい分岐路やけもの道などを確認していますか
- 2-24 保安施設（杭、柵、ロープなど）に異常はありませんか
- 2-25 落石、崩落、雪崩などの危険性などについて確認していますか
- 2-26 倒木、枯れ木、落枝などの危険性などについて確認していますか

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集—1）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### Ⅲ 参加者の募集

参加者をできるだけ多く集めるためには、まずその趣旨を広く広報し、社会的な認知を得ておく必要があります。

そのため、どういう目的で、どういう人を対象にして、何をしようとしているのかなどをわかりやすく紹介したパンフレットづくりが求められます。

次いで、参加者の募集を受け付け、参加者や保護者に対して参加に当たっての情報を伝える必要があります。特に、参加者が子どもの場合は、保護者に対して事前説明会を開催する必要があります。

事前説明会では、活動の趣旨やリスクの説明を行い、さまざまな懸念や不安を取り除くとともに、互いの信頼関係を作り上げる努力を行う必要があります。

なお、この機会に保護者から参加者の健康状態や生活習慣などの情報を得ておくことがポイントです。

(広報)

- 3-1 わかりやすい、関心を惹く募集パンフレットになっていますか
- 3-2 組織の関係者に活動の目的や内容が周知されていますか
- 3-3 市町村、関係団体などに広報のための募集要項を届けていますか
- 3-4 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミ機関に知らせていますか
- 3-5 その他、あらゆる方法で集客の努力をしていますか

(募集・受付)

- 3-6 募集パンフレットには、募集要項（名称、目的、期間、場所、募集人員、応募資格、集散場所、集散時刻、宿泊先、参加費、申込方法等）が記載されていますか
- 3-7 活動プログラムの内容を知らせていますか
- 3-8 天候等により活動プログラムの中止・変更がありうることを知らせていますか
- 3-9 申込者の連絡先（日中連絡がとれる電話番号など）を把握していますか
- 3-10 活動プログラムを指導する講師を知らせていますか
- 3-11 参加者の服装、持ち物などの情報を知らせていますか
- 3-12 参加のキャンセル方法について知らせていますか
- 3-13 傷害保険への加入について知らせていますか
- 3-14 参加できる健康状態について知らせていますか
- 3-15 体験活動上のリスクについて知らせていますか
- 3-16 参加者の健康状態（蜂アレルギー・食物アレルギーの有無なども）を把握していますか
- 3-17 健康チェックシートを提出してもらうことを知らせていますか
- 3-18 持病がある場合、医師の診断書が必要なことを告知していますか
- 3-19 必要に応じて保護者の同伴を求める場合があることを知らせていますか
- 3-20 子どもの場合、保護者の参加同意書が必要なことを知らせていますか
- 3-21 募集に当たってのトラブル、問い合わせに対応する責任者を決めていますか
- 3-22 参加者名簿（氏名、住所、保護者名、連絡先など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（参加者の募集—2）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

（事前説明会）

- 3-23 事前説明会の資料を作成していますか
- 3-24 スタッフ、指導者の紹介をしていますか
- 3-25 説明スタッフの役割分担ができていますか
- 3-26 活動の目的をわかりやすく説明していますか
- 3-27 交通機関、所要時間、集散場所、集散時刻等について説明していますか
- 3-28 活動内容やスケジュールについて説明していますか
- 3-29 自然体験のリスクについて説明していますか
- 3-30 安全管理の体制について説明していますか
- 3-31 傷害保険の加入について説明していますか
- 3-32 服装と携行するものについて説明していますか
- 3-33 天候等が変わった場合の代替プログラムについて説明していますか
- 3-34 中止の場合の連絡方法について説明していますか
- 3-35 参加できる健康状態について説明していますか
- 3-36 参加者の健康チェックシートについて説明していますか
- 3-37 個人情報には目的外には使用しないことを説明していますか
- 3-38 参加同意書について説明していますか
- 3-39 出発前までの健康管理や生活習慣について説明していますか
- 3-40 キャンセル方法について説明していますか
- 3-41 参加費（宿泊費、食事代、交通費、保険料など）について説明していますか
- 3-42 シャツ、ズボン、手袋、靴、帽子など服装について説明していますか
- 3-43 ザック、雨具、水筒など携行する装備について説明していますか
- 3-44 参加できなかった保護者に対して、事前説明会の資料を届けていますか

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（運営組織）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### IV 運営組織

活動プログラムを円滑に実施するためには、活動を運営するための組織づくりが重要です。

組織としては、全体を統括する統括責任者、活動プログラムの指導や進行を担当するスタッフ、参加者の安全や生活指導を担当するスタッフ、そしてそれらを支援する裏方などがあります。

それぞれについて必要なスタッフの人材、人数を確保し、ミーティングなどを通じてそれぞれの役割分担や連携体制を確認することが重要です。

- 4-1 全体を統括する責任者を決めていますか
- 4-2 活動規模に対してスタッフ数は足りていますか
- 4-3 プログラムの進行を担当するスタッフがいますか
- 4-4 スタッフの役割分担を決め、その記録をとっていますか
- 4-5 森林の生態系について解説できるスタッフがいますか
- 4-6 地形図とコンパスが使えるスタッフがいますか
- 4-7 歩き方の指導ができるスタッフがいますか
- 4-8 ロープワークができるスタッフがいますか
- 4-9 生活指導ができるスタッフがいますか
- 4-10 気象情報を読めるスタッフがいますか
- 4-11 危険な生物への対処ができるスタッフがいますか
- 4-12 活動に使用する装備や道具の使い方がわかるスタッフがいますか
- 4-13 無線機などの通信機器が扱えるスタッフがいますか
- 4-14 危険予知トレーニングなどの講習を受けたスタッフがいますか
- 4-15 救助・救命措置ができるスタッフがいますか



## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理－１）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### V 安全管理

森林体験学習活動のプログラムは、事故やケガを発生させることなく提供するものでなければなりません。このため、活動における危険を予知して「危険要素とどうつきあうのか」について対策を講じておく必要があります。

安全管理は、すべての段階において配慮しなければなりません。ここでは安全管理体制、集団生活及び損害保険に区分して整理しました。

特に、子どもの宿泊を伴う活動の場合は、家族と離れた生活となることから、不安や思わぬ事故が発生することが少なくありません。このため、子どもたちが「自分のことは自分です」という自立した意識を支援することにも心掛けたいところです。なお、万が一の事故に対応するために、参加者やスタッフの傷害保険、主催者の賠償責任保険を付ける必要があります。

#### （安全管理体制）

- 5-1 参加者の健康状態を把握していますか（子どもの宿泊を伴う場合は生活習慣も）
- 5-2 時間的な余裕を持たせたスケジュールとなっていますか
- 5-3 季節に適合した活動プログラムとなっていますか
- 5-4 岩場、湖沼など人命にかかわる危険な場所を点検していますか
- 5-5 危険な活動に対応する装備を準備していますか
- 5-6 最新の気象状況を把握できる準備ができていますか
- 5-7 緊急時のエスケープルートが確保されていますか
- 5-8 安全の行動基準（中止など）が作成されていますか
- 5-9 活動場所の近くに避難できる施設や場所を確保していますか
- 5-10 事故発生時の行動チャートやマニュアルを作成していますか
- 5-11 事故発生時のスタッフの役割が周知されていますか

#### （集団生活）

- 5-12 子どもたちに「自分のことは自分です」という姿勢をもたせるよう指導していますか
- 5-13 集団生活上のルールについて周知していますか
- 5-14 寝室、浴室、トイレ、避難路などの施設について説明していますか
- 5-15 食事の時間、内容は適切になっていますか
- 5-16 就寝時間や起床時間が周知されていますか
- 5-17 参加者の健康状態（発熱など）をチェックしていますか
- 5-18 部屋の清掃、ゴミの処理、身支度などについて指導していますか
- 5-19 共同生活上の悩み事を話せる状態が作られていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（安全管理－2）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

（損害保険）

- 5-20 参加者は傷害保険に加入していますか
- 5-21 スタッフは傷害保険に加入していますか
- 5-22 主催者は賠償責任保険に加入していますか
- 5-23 宿泊を伴う活動の場合、旅行保険に加入していますか
- 5-24 自動車を使用する場合、自動車保険に加入した車両を使っていますか
- 5-25 保険会社（代理店）に相談する人がいますか
- 5-26 保険金額、免責事項が分かっていますか

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施の準備）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### VI 実施の準備

活動プログラムを円滑に進めるためには、事前に最終的な打ち合わせを済ませておく必要があります。

このため、スタッフ全員によるミーティングを行い、必要な情報を共有するとともに、使用する器具や携行する用品の点検を行うことがポイントとなります。

- 6-1 スタッフ用の活動マニュアル（虎の巻）を作成し、説明していますか
- 6-2 活動前のスタッフミーティングを行い、その記録をとっていますか
- 6-3 下見情報をスタッフ全員で共有していますか
- 6-4 天候による実施可否の判断と連絡体制を整えていますか
- 6-5 荒天時の代替プログラムの実施体制を確認していますか
- 6-6 スタッフに最新の気象情報を伝えていますか
- 6-7 スタッフに最新の交通情報を伝えていますか
- 6-8 スタッフの健康状態を確認していますか
- 6-9 実施体制に変更がある場合、スタッフにその情報を伝えていますか
- 6-10 受付の準備は整っていますか
- 6-11 新聞、テレビなどの取材がある場合、対応者を決めていますか
- 6-12 器具を使用する場合、器具の作動状況を点検していますか
- 6-13 救急用品の内容を点検（使用期限のチェックを含む）していますか
- 6-14 救命、救助のための装備を点検していますか

## 森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営－1）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### VII 実施当日の運営

実施当日は、集合場所に参加者を迎え、参加者の確認やスタッフの紹介が行われます。

活動を円滑、かつ安全に進めるためには、まずスタッフと参加者との信頼関係を築くことがポイントです。

また、活動を終えたら後片付けをきちんと行うことも重要です。

（開始時）

- 7-1 参加者名簿に基づき、参加者を確認していますか
- 7-2 遅刻者に対する対応策がとれていますか
- 7-3 スタッフや関係者を紹介していますか
- 7-4 プログラムの目的や行動予定をわかりやすく説明していますか
- 7-5 スタッフと参加者とのコミュニケーション作りをしていますか
- 7-6 グループの編成は適正ですか
- 7-7 健康状態が優れない参加者への対応は適切ですか
- 7-8 宿泊を伴う場合、集団生活の注意事項をわかりやすく説明していますか
- 7-9 参加者の健康状態を確認していますか（子どもの場合、体温、食欲、排便、睡眠など）
- 7-10 上着、ズボン、靴、帽子などの服装を点検していますか
- 7-11 雨具、水筒、手袋などの携行品を点検していますか
- 7-12 活動エリア内の危険個所について説明していますか
- 7-13 「自分の安全は自分自身で守る」ことを納得させていますか
- 7-14 移動中の経路の安全確認は十分ですか
- 7-15 携帯する水筒には、傷の洗浄用を兼ねて、水道水を入れてありますか
- 7-16 出発までに用便を済ませるよう知らせていますか
- 7-17 準備体操やアイスブレイキングの実施などにより不必要な緊張や懸念を取り去っていますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営―2）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

(実施中)

- 7-18 統括責任者は、グループ全体を常に把握していますか
- 7-19 スタッフは、活動プログラムを適切に指導していますか
- 7-20 プログラムに対する参加者の反応を把握していますか
- 7-21 道具の使い方を適切に指導していますか
- 7-22 危険な場所にはスタッフを配置していますか
- 7-23 危険な個所では、その都度注意を喚起していますか
- 7-24 天候の変化などに応じて柔軟に対応していますか
- 7-25 危険な個所を発見したとき、他のグループに伝えてありますか
- 7-26 活動中のペースを確認していますか
- 7-27 休憩ポイントなどで人数を確認していますか
- 7-28 活動中における服装の乱れに注意していますか
- 7-29 参加者の疲労具合を把握していますか
- 7-30 雨具の着用について指導していますか
- 7-31 トイレがある場所を周知していますか
- 7-32 グループを離れる場合、必ずスタッフに伝えることを周知していますか
- 7-33 自由時間（昼食など）での行動範囲を周知していますか
- 7-34 参加者が互いに交流する自由な時間が用意されていますか
- 7-35 活動中におけるゴミ処理の方法について説明していますか
- 7-36 活動中の指示・連絡方法についてスタッフ間で確認していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（実施当日の運営―3）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

（終了時）

- 7-37 子どもたちの作品がある場合、その評価を行っていますか
- 7-38 参加者から感想や意見などを聞いていますか
- 7-39 活動中におきたヒヤリ・ハットの事例を聞き、記録していますか
- 7-40 活動終了のメッセージを伝えていますか
- 7-41 施設や備品などの後始末について確認していますか
- 7-42 使用後の装備、器具について点検し、メンテナンスしていますか
- 7-43 活動後のスタッフミーティングを実施していますか
- 7-44 施設や備品などを損傷した場合、管理者に届けていますか
- 7-45 協力者や関係者に活動終了の報告をしていますか

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

## VIII 事故発生への対応

事故が起きた場合の対応としては、まず、どれだけ迅速にかつ適切に被害を最小限に収めるかが重要です。

このため、スタッフの訓練をしておく必要があります。

次に、救急病院、警察署などの関係機関への速やかな連絡が必要となります。

また、出来るだけ速やかに保護者や家族及び関係者にその状況を伝えることを忘れてはなりません。

### （事故発生時）

- 8-1 事故の発生を統括責任者に連絡しましたか
- 8-2 被災者のケガの状態を確かめ、応急手当をしましたか
- 8-3 被災者の移動が可能な場合、被災者を安全な場所に移動させましたか
- 8-4 他の参加者を安全な場所に誘導しましたか
- 8-5 救助者の安全を確保したうえで、被災者を救助しましたか
- 8-6 被災者のショックを和らげる励まし（声かけなど）を行いましたか
- 8-7 被災者の保護者又は家族に事故発生情報を速やかに連絡しましたか
- 8-8 重大な事故の場合、関係機関に搬送、救助を依頼しましたか
- 8-9 自分たちで搬送する場合、役割分担を決めていましたか
- 8-10 警察の事情聴取やマスコミへの対応者を決めて対応しましたか
- 8-11 事故現場の保全（写真、ビデオ撮影）をしましたか
- 8-12 事故発生後の対応状況について記録をとりましたか

### （事故のケア）

- 8-13 被災者の保護者・家族に事故経緯や処置状況などをきちんと説明していますか
- 8-14 被災者の回復状況など、その後の経過について把握していますか
- 8-15 保険会社や弁護士に事故発生や経過を連絡し、指示を受けていますか
- 8-16 傷害保険の請求手続きを速やかに行っていますか
- 8-17 重大な事故の場合、他の参加者やその保護者・家族に対して事故の説明をしていますか
- 8-18 世話になった関係機関に対して、謝意（礼状など）を述べていますか
- 8-19 事故の発生状況や対応状況を記録していますか
- 8-20 事故に関する報告書（発生原因、対策など）を作成していますか

森林体験学習活動安全管理チェックシート（事後の評価）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

## IX 事後の評価

- 9-1 参加者が子どもである場合、後で保護者からの意見をもらっていますか
- 9-2 活動に関する報告書を作成していますか
- 9-3 活動に関する収支決算書を作成していますか
- 9-4 活動プログラムの計画と実施の差異について検討していますか
- 9-5 予算と決算の差異を分析し、対応策を検討していますか
- 9-6 事件事例を分析し、その処置方法について検討していますか
- 9-7 ヒヤリ・ハットの事例を分析し、改善策について検討していますか
- 9-8 主催者に活動結果と改善点について報告していますか



# 森づくり作業安全管理チェックシート

## 1 はじめに

森づくり作業安全管理チェックシートは、森林体験学習活動の内容が植林や下刈り除伐などの森づくり作業である場合を想定し、作業の種類ごとにチェックすべき項目の事例をリストアップしたものです。

一般的に森づくり作業に参加する者は、自然物を対象とした作業に不慣れです。このため、森づくり作業を行うに当たっては、多様な作業条件に適応した作業姿勢、作業動作など森づくりに関する幅広い知識と技能を有する指導者の下で行われることが前提となります。

したがって、本チェックシートは、主として指導者が利用するためのものとなっています。

なお、このチェックシートは、「森林体験学習等における安全管理手法に関する報告書」（平成18年3月林野庁）に掲載された「安全管理チェックシート」に加筆・修正をしたものです。

## 2 チェック事項別の項目数

チェック事項別のチェック項目数は下表のとおりです。

番号	事項	チェック項目数	番号	事項	チェック項目数
I	服装と保護具	8	VI	植え付け作業	5
II	手道具の取扱い	6	VII	下刈り作業	7
III	悪天候時等における作業禁止	3	VIII	枝打ち作業	10
IV	グループ作業での注意	7	IX	間伐作業	21
V	作業中の歩き方	9	X	事故防止と応急措置	17

## 3 チェックシートの構成

森づくり作業安全管理チェックシートは、10のチェック事項別に区分されており、それぞれ、各シートの冒頭に、以下のように、①記入日、②記入者名、③できなかった項目数の記入欄（本チェックシートは二段）を設けています。

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

続いて、項目ごとに、チェック欄（）を二つ設けています。

1-1 （チェック内容の記載）

このように、各チェックシートは2回分のチェック用として使用することができるので、違いを比較することによって、問題点の洗い出しや改善措置の検討に役立てやすくなっています。

## 森づくり作業安全管理チェックシート（服装と保護具）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

### I 服装と保護具

森づくり作業における安全の第一歩は、それにふさわしい服装を着用することから始まります。

また、ヘルメットは、森林での災害から身体を守る大切な保護具として、正しく使用することが大切です。

- 1-1 服装は動きやすい清潔なものを着用していますか
- 1-2 袖絞まりのいい上着、裾絞まりのいい長ズボンを着用していますか
- 1-3 履き物は、野外作業に適した丈夫で滑らないものですか
- 1-4 手袋は滑り止めのついたものを使用していますか
- 1-5 ヘルメットは、顎ヒモで締めるなど正しく着用していますか
- 1-6 脛あては、丈夫で動きやすいものを着用していますか
- 1-7 必要に応じて、防塵眼鏡（ゴーグル）を使用していますか
- 1-8 必要に応じて、防蜂網を使用していますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（手道具の取扱い）

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

### II 手道具の取扱い

手道具は、人間の手足の補助として創意工夫され進化した道具です。したがって、その人の体力にあったものを、よく手入れをし、適切に使用すれば安全であり、また疲労も少なく能率も上がるものです。

- 2-1 使用前に必ず点検していますか
- 2-2 刃物は、よく砥いでから使用していますか
- 2-3 手道具を使用した後は、刃こぼれ、変形、ひび割れ、弛みなどがいないか点検し、壊れたものはメンテナンスしていますか
- 2-4 刃物を使わないときは、刃カバーをつけ、安定した場所に、見えやすい状態にして置いていますか
- 2-5 手道具をしまうときは、所定の場所に、整理、整頓して収納していますか
- 2-6 刃物を研ぐときは、安定した姿勢で、適切な道具（砥石、研台、ヤスリなど）を使っていますか

森づくり作業安全管理チェックシート（悪天候時等における作業禁止）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### III 悪天候時等における作業禁止

森づくり作業は、すべてが野外作業となるため、暑さ、寒さ、雨、風、雷など天候条件を配慮する必要があります。

- 3-1 強風、大雨、大雪など天気が荒れているときは作業を止めていますか
- 3-2 台風や大雨などの後では、現地を下見し危険がないか確認していますか
- 3-3 雷や地震の発生、又はそのおそれがあるときは、安全な場所に避難していますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（グループ作業での注意）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### IV グループ作業での注意

森づくり作業は、刃物を扱いながら行う他の人とのグループ作業です。そのため、自らの刃物でケガをしないよう正しい動作で作業をすることはもちろんのこと、他の人にケガをさせないように注意しなければなりません。

- 4-1 指導者は、作業開始に当たって作業手順を全員に周知していますか
- 4-2 グループ作業を行う場合、上下作業、近接作業とならないよう配置していますか
- 4-3 刃物を使う場合、隣の人との間隔を手道具の長さの2倍以上とっていますか
- 4-4 木を倒す場合、樹高の1.5倍の範囲に人がいないことを確認していますか
- 4-5 危険を知らせる合図（呼子など）の方法を全員に周知していますか
- 4-6 危険物（浮き石、落下のおそれがある枯れ枝、蜂の巣など）を発見した場合、近くにいる人に知らせていますか
- 4-7 作業をしている人に近寄る場合は、必ず声をかけてから近づくようにしていますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（作業中の歩き方）

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

### V 作業中の歩き方

森づくり作業では、傾斜地を歩行しながら作業をすることが常態であることから、歩行中に関わる災害が少なくありません。

また、作業場所にはさまざまな障害物が多く、つまづき、転倒、滑落などのときに刃物の事故が多く発生しています。

- 5-1 不安定な障害物の上を歩かないよう注意していますか
- 5-2 急な傾斜地、崖などをショートカットしないよう注意していますか
- 5-3 歩行者間の距離は、十分に保つよう注意していますか
- 5-4 浮石を発見した場合、下方を歩いている者に注意を呼びかけていますか
- 5-5 刃物を持ち歩いている場合、必ず刃掛け（安全カバー）をしていますか
- 5-6 刃物の柄を杖がわりに使わないよう注意していますか
- 5-7 丸太橋などの滑りやすい歩道施設の安全を確認していますか
- 5-8 靴紐がほどけていないか、呼びかけていますか
- 5-9 地下足袋の場合、切り株で足を踏み抜かないような歩き方を指導していますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（植付作業）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

---

### VI 植え付け作業

植え付け作業では、主に唐鋤を使用します。

このため、唐鋤の不具合を点検するとともに、掘り出した木の根、石などの転落に注意する必要があります。

- 6-1 植え付け作業に使用する唐鋤の刃は、欠けたりしていませんか
- 6-2 唐鋤の柄が落ち抜けないようにしっかりと固定されていますか
- 6-3 傾斜地で植え付ける場合、上下作業にならないように人を配置していますか
- 6-4 掘り出した木の根、石など転落のおそれがあるものは、安定させていますか
- 6-5 浮石や伐根などつまづきやすい障害物に十分注意していますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（下刈り作業）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### VII 下刈り作業

下刈り作業では、長い柄がついた下刈り鎌を使用します。

この道具は、横に振り下ろすようにして使用しますので、上下作業や近接作業にならないよう人を配置することがポイントです。

また、夏の炎天下での作業となるため疲労には特に注意が必要です。

- 7-1 上下作業、近接作業にならないよう人を配置していますか
- 7-2 逆手、逆足とならないよう、正しい構えの刈り方を指導していますか
- 7-3 下刈り鎌は、必要以上に大振りしないよう注意していますか
- 7-4 ツルが巻きついている場合、ツルの根元を切ってから草を刈るよう指導していますか
- 7-5 足下より低い箇所を刈らないよう指導していますか
- 7-6 休息をこまめにとり、水分や塩分を補給するように指導していますか
- 7-7 直射日光や蜂刺されを防ぐため、肌を露出しないよう指導していますか



## 森づくり作業安全管理チェックシート（枝打ち作業）

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

年 月 日 記入者名 できなかった項目数

### VIII 枝打ち作業

枝打ち作業では、主に鉋や手鋸を使用します。

この作業では、道具を持たない方の手を力余って切る事故が多く発生します。

また、ハシゴなどを使った高所作業となることから、転落などの事故に注意する必要があります。

- 8-1 はしご、木登り器、安全帯などの安全性を点検していますか
- 8-2 鋸、鉋など手道具は、弛みがないか点検していますか
- 8-3 幹や枝を掴む手が、振り下ろす刃物の下にならないようにしていますか
- 8-4 大きな枝を落とす場合、2回に分けて枝を切り落とされていますか
- 8-5 枝打ちに鉋を用いる場合は、両刃の鉋を使用していますか
- 8-6 頭上の枝を落とす場合、防塵眼鏡（ゴーグル）を使用していますか
- 8-7 ハシゴを使用する場合、ハシゴはしっかりと固定されていますか
- 8-8 樹上で作業する場合、体を支える腕は、切り落とす枝の上方の幹に回していますか
- 8-9 身の丈以上で作業する場合は、安全帯を使っていますか
- 8-10 樹上で作業している場合、木の周りには人が立ち入らないようにしていますか

## 森づくり作業安全管理チェックシート（間伐作業－1）

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

年 月 日 記入者名 \_\_\_\_\_ できなかった項目数 \_\_\_\_\_

### Ⅸ 間伐作業

間伐は、樹種構成、林齢、林分密度、目的とする森林の姿などによって、幾つかの種類に分けることができますが、ここでは準優勢木以下を中心に伐採し、残存木の成長を促進する目的で行われる人工林の「下層間伐」を想定しています。したがって、手道具を使った小径木を対象とした比較的軽易な作業です。

しかしながら、伐倒は、森づくり作業の中でも最も危険な作業であり、重大な事故が発生する作業であることには違いがないので、ロープを使用して伐倒木を誘導するなど、手順を追って作業を進め、安全管理については細心の注意を払う必要があります。

（伐倒の準備）

- 9-1 参加者の経験、装備、作業人数などを見極め、無理のない伐倒対象木を選木していますか
- 9-2 蔓がらみ、枯れ木、欠頂木、著しい偏心木などの危険な樹木は避けていますか
- 9-3 伐倒対象木には、識別できるように印がつけられていますか
- 9-4 伐倒対象木の重心がどちら側に偏っているかを見極めて、伐倒方向を決めていますか
- 9-5 かかり木の発生には、細心の注意を払っていますか
- 9-6 安全な退避箇所（他の立木を盾にできるような場所など）を決めていますか
- 9-7 伐倒対象木の周辺や退避経路上にある障害物を取り除いていますか
- 9-8 根張りが大きい伐倒対象木の場合、切り口は根張りの上部としていますか
- 9-9 伐倒対象木の上部に枯枝や蔓が巻きついていないか確認していますか

森づくり作業安全管理チェックシート（間伐作業－2）

年 月 日 記入者名 できなかつた項目数

---

年 月 日 記入者名 できなかつた項目数

---

（伐倒作業）

- 9-10 伐倒作業を開始したことを周囲の人に知らせていますか（笛を2回鳴らすなど）
- 9-11 偏心木を伐倒する場合、あらかじめロープをかけて伐倒方向に誘導する準備をしていますか
- 9-12 伐倒方向側に楔（クサビ）状の受け口を切っていますか
- 9-13 受け口の深さは、立木の直径の1/4から1/3の範囲としていますか
- 9-14 追い口切りは、受け口の高さの2/3程度のところを、伐倒方向に対して直角に切っていますか
- 9-15 追い口切りを開始した段階で、伐倒直前であることを周囲の人に知らせていますか（笛を3回鳴らすなど）
- 9-16 追い口をある程度切り進んだ段階で、追い口に楔を打ち込んでいますか
- 9-17 追い口は、受け口の深さから立木の直径の10/1程度の部分（ツル）を残していますか
- 9-18 ロープを使って伐倒木を誘導する場合、伐倒方向から直接牽引しないように（他の立木にロープを回すなど）していますか
- 9-19 伐倒が済んだら、安定し、滑落しない状態を確認してから、作業終了を周囲の人に知られていますか（笛を長く1回鳴らすなど）

（伐倒木の処理）

- 9-20 伐倒木の枝払いは、斜面の山側（上側）から行っていますか
- 9-21 玉切りした丸太は、転がらないように安定させていますか（他の立木などを利用して）

## 森づくり作業安全管理チェックシート（事故防止と応急措置）

年 月 日 記入者名

できなかった項目数

年 月 日 記入者名

できなかった項目数

### X 事故防止と応急措置

森づくり作業は、人里離れた場所で行われるのが通常です。このため、ケガや事故に備えて応急体制を十分に整える必要があります。

また、危険な生物も多く、これに適切に対処することも必要です。

#### （健康の維持）

- 10-1 作業前及び作業後に、体をほぐす体操などを行っていますか
- 10-2 炎天下では、十分な休憩をとり、水分や塩分を十分に補給していますか
- 10-3 寒冷時の休憩では、暖かい場所で体を冷やさないようにしていますか
- 10-4 体調が悪い参加者には、作業をしないよう指導していますか

#### （火気の取扱い）

- 10-5 焚き火をする場合は、周囲の燃えやすいものを取り除いていますか
- 10-6 焚き火から離れる場合、水や土をかけて踏み固めるなど完全に消化を確かめていますか
- 10-7 タバコを吸う場合は、携帯用の吸殻入れを用いていますか
- 10-8 引火性のある燃料や薬剤の傍では、火気を扱わないよう注意していますか
- 10-9 山火事が発生したときは、すみやかに消防署に通報していますか

#### （危険な生物）

- 10-10 長袖の上着、長ズボン、手袋、腕カバー、帽子など肌を露出しない服装をしていますか
- 10-11 蜂の巣がある場所では、防蜂網を着用していますか
- 10-12 蜂の巣を発見したときは、巣にいたずらをしないよう注意していますか
- 10-13 蜂の攻撃を受けやすい黒地の服の着用や香水などは控えるよう注意していますか

#### （被災者の救急体制）

- 10-14 緊急時に備えて被災者を早急に救護できるように連絡先、手順などを把握していますか
- 10-15 被災者の状態（顔色、冷汗、手足の動きなど）を観察し、適切な措置（止血、人工呼吸、心臓マッサージなど）を行える体制が整っていますか
- 10-16 救急用品の内容を点検し、使用期限のチェックをしていますか
- 10-17 救命、救助のための装備を点検していますか

# MEMO

# MEMO



